

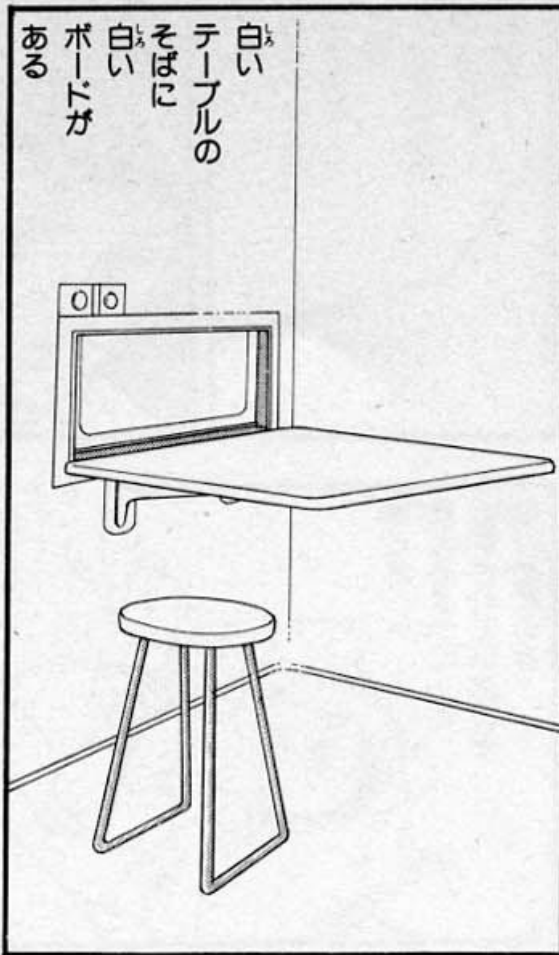
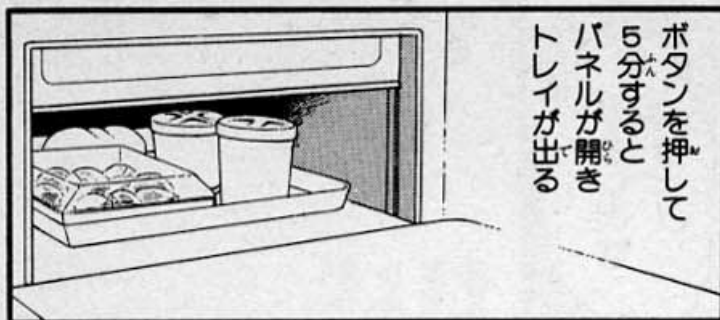
こんな
何も
ない
部屋で
人間が
何も
しないでいると
どうなるか

これは まるで
ゆっくりと……

死んでゆく
感じだ

スロー・ダウン

スロー・ダウン



ふいたが
フェルト地の
床に
しみができた

メガネには
わざわざ
くもりガラスが
入れてある
ので

見る
しみは
ぼやけて
見える

ぼくは

このしみが
好きだ

壁の
どこかにある
マイクが
この
ひとりごとを
聞きとる
だろう



ぼくは
時どき
0から
120まで
数える

時どき
数えるように
指示されていたのを
思い出すのだ



正確に
120秒で
120を
数えられるかの
リズムの
実験だ

壁の向こうで
誰かが
ストップウォッチを
もっている



こんなふう
に
集中力が
落ちてきたら
幻覚を
見るように
なるらしい
——この実験の
パターンでは

まだ
何も
見えない



時どき
120まで
確かに
数えたかどうか
わからなく
なる

集中力が
落ちてきて
せいで



……どこまで
数えたつけ

ふっ…

スロー・ダウン

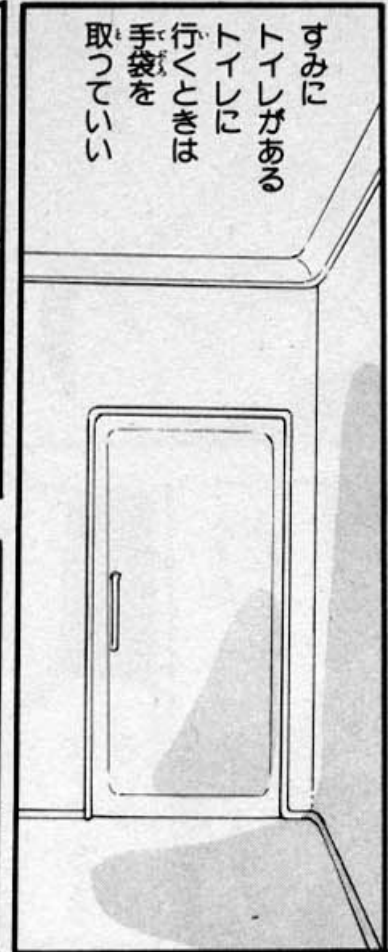
すみに
トイレがある
トイレに
行くときは
手袋を
取っついていい

トイレは
監視されては
いないが

壁の向こうで
尿が採取され
分析される

体調を
しらべる
ためだ

前
写真で見た
スカイラフの
トイレ
みたいだな こうや



体調は
どうだろう

こんな
夜昼のない
恒常環境に
身をおくと

生物の
24時間の
リズムが
変わると
聞いた

一日が
25時間とか
30時間とかの
サイクルになったり...



脳液を
はかる
ベルトや
服の
あちこちに
ついてる
計器が

心拍数
呼吸数
血圧
体温を

壁の向こうの
コンピューターに
送り続けている



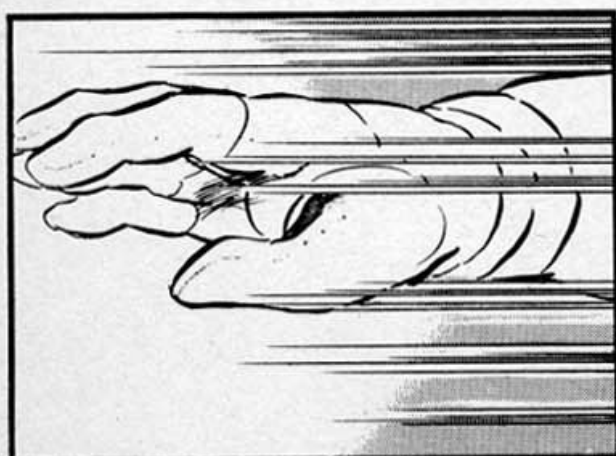
こういう
実験の
成果が

長期の
宇宙旅行
などに
応用
されるん
だろう





スロー・ダウン







うそだ！

ちがうちがう
うそだぞ！

何とでも言えるぞ！
ここは海底だ！
ここは空中だ！
ただ言うだけ
しゃべるだけなら

でも ぼくが
さつき
つかんだ手は
ほんものの
手だったぞ！

手？
何の
ことだ

女の
手だった！
確かに手だった！

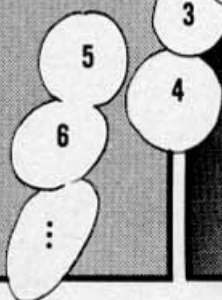
手袋を
通して
確かに
ふれた！

これは
宇宙船じゃ
ない！
地下の
実験室で
外には
女がいる

そうとも！
でなけりや
何でぼくは
ここに
いるんだ？

ほら
何日前かの
コーヒーの
しみだ
何日前かな？
だめだ
ひとりごとが
とまらない

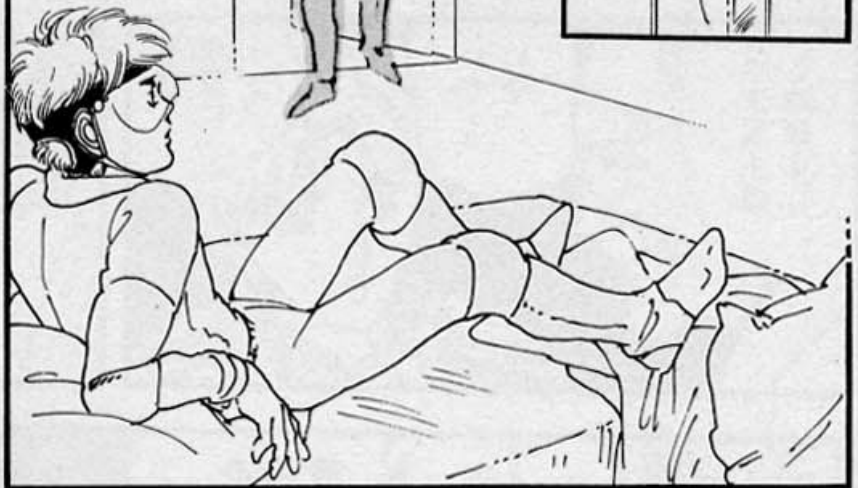
そろそろ
限界かな
しかし
幻覚は
見ないな
変だな
そうだと
2分間推定を
やろう

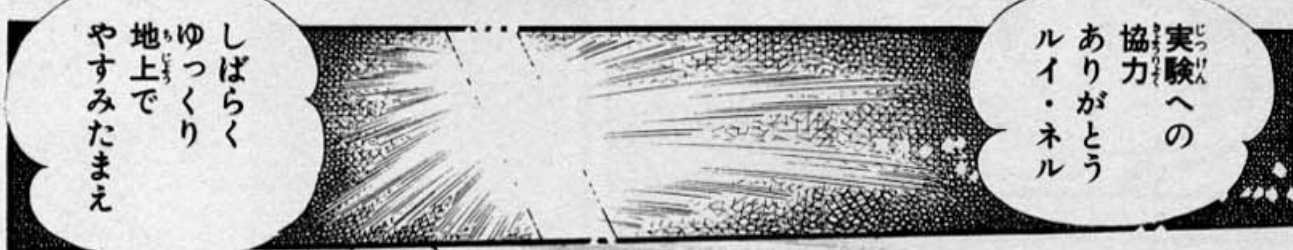


スロー・ダウン



あれ
これはついに
幻覚か……





10日ぶりの
外界だ！

右足
左足



何だか
くらくら
するな……

住みなれた街が
まるで
はじめての
場所みたい



まア 感覚遮断の
実験だったんだからな

すくもこに
もぐるな

さア
TVを見るぞ
レコードを聞くぞ！

女の子と会っぞ
ディスコに行くぞ！



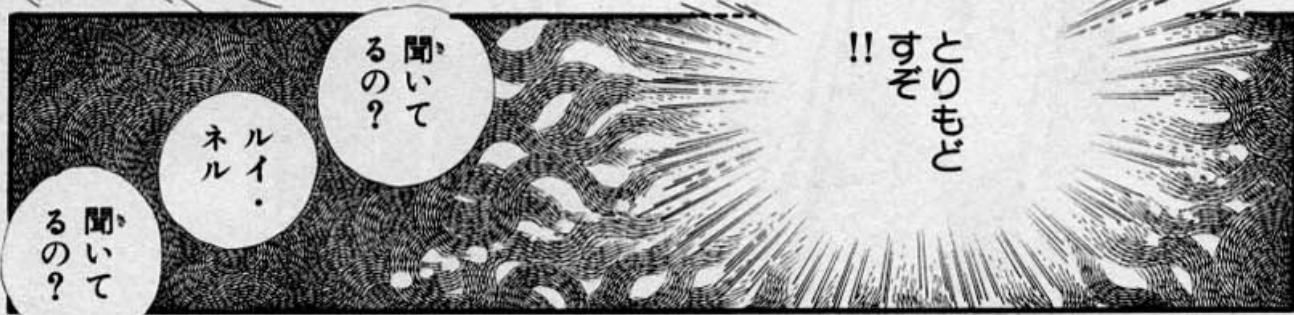
10日分の
しげきを
しげきを

とりも
すぞ
!!

聞いて
るの？

ルイ・
ネル

聞いて
るの？



あ……



何よう
にまにま
笑って

地下室の
実験で
頭やられ
たの？

踊りま
しょうよ



あ……

どう
したの
わたしを
見てよ

あ……





……ねえ……

ん？

ここは
ほんとに
地球かい
……

何い
言っ
てん
の！
ルイ

……
きみは
地球人
ほんもの
の……？

S F
やめて
ルイ！

へんだ
な……

何も
かも……

実感が
なくて……

うそ
みたいだ……



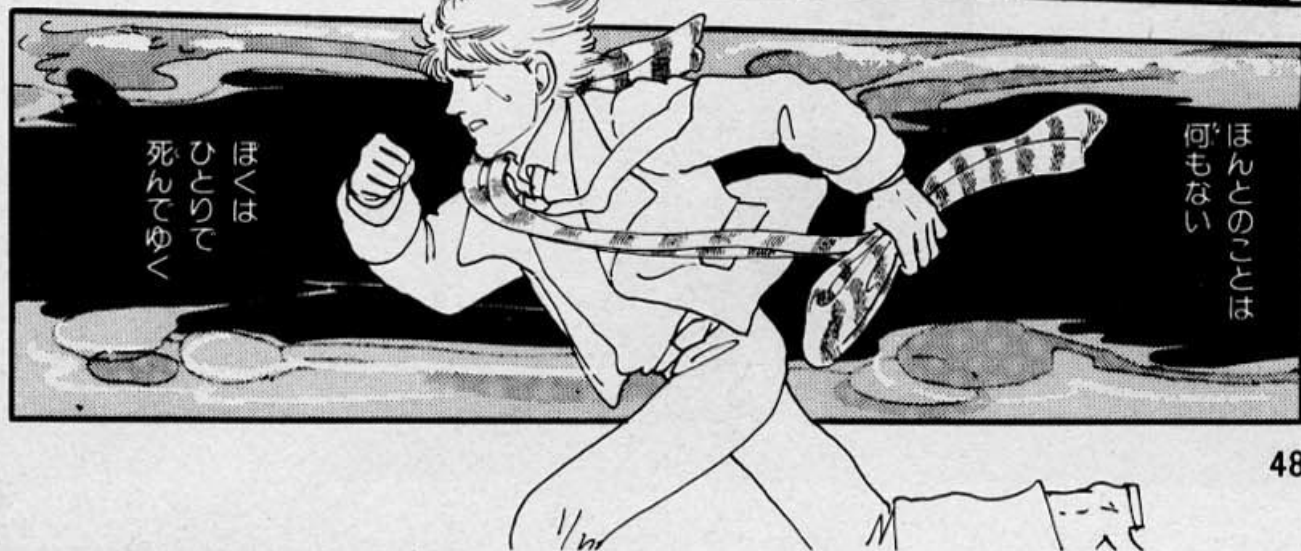
いったい
この世の
どれほどが

ほんとに
真実だと
いうのだろっ

確かなものは
何もない

何もない
あの部屋と
おなじだ！

どうし
たのよ
ルイ・ネル！



ほんのことは
何もない

ほくは
ひとり
死んでゆく

——ほんものの
手を！

ほくに
手をあぐれ



あの小さな
白い部屋で



あなたは
しだいに
死んでゆく

あそこは
宇宙
あなたは
追放された人



または
幽界
あなたは
黄泉の人

でも
あなたは
生きかえる



ほくが
そうであつた
ように

ほくが
ボードから
さし出す手を



あなたは
にぎり
しめる



そのとき

ほくたちは

果てしない
永遠の眠りから
目覚めるのだ